

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章16～18節>

1 「年は取っても、気は若い」ということ？ 違う！

「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます」(16)。これを読んで、「落胆しません」とか「衰えていくとしても」とか言われているので、「年は取っても、気は若い」というようなことを思う人がいるかもしれません。しかし、「落胆しない」というのは年を取ることについて言っているのではありません。1節ですでに使われています。それは、「**キリストの栄光に関する福音**」(4:4)が覆われていることについて、さらにその福音の光を受けた人に起こる変化について(4:5-6, 3:18)言っているのです。

2 死に直面しても恐れず、むしろ福音の栄光を照らし続けた人々。

私はかつて、高齢の信仰者の方が死に直面した中で信仰ゆえに死を恐れず、むしろ主にある平安の姿と言葉を示して、その姿を見た回りの求道者が信仰に導かれた経験をしました。それがここで、「外なる人」は衰えても「内なる人」は日々新たにされていく、とパウロが言っていることです。ただ「年は取っても、気は若い」というようなことではなく、主イエス・キリストの死と復活を通して死を恐れなくなり、この世ですでに、死に至るその時までその福音を喜びのうちに宣べ伝え続けて人生を終える人のことを言っているのです。ですからこそ、それは当然死の先もこの恵みの神様が用意して下さっているものとして考える内容につながって行くのです(17-18)。死を恐れなくなる所以その2です。

3 一時の軽い艱難と重みのある永遠の栄光。それが意味することは？

パウロはこの福音を知らされると、この世での生活ではなお患難があるけれども、福音を他者に届けるという重い栄光ある務めを担っていることを思うと、その艱難は軽くなると言っているのです。もう少し後でも、「**キリストと結ばれる人は誰でも新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた**」(5:17)と言っている通りです。そのような生き方が私たち一人ひとりにも与えられたのです。(駅ピアノから)